



外房のマハタ仕掛け例
 竿全長18~24m 7~3号子 オモリ負荷表示
 40~100号ゲムロッドなど
 親子サルカン#4号
 捨て糸#30号
 リール=中型両軸
 オモリ=80号
 親バシ=イセアマ12号前後
 孫バシ=トレブル#6~7号

•Tackle Guide
 ハリス6号のヒラメ仕掛けを使う人が多いものの、大型に備えて7~8号があれば安心。ききアタリが遠いときは1本バリ仕掛けも効果的。

けはハリス8号1メートルの1本バリ。
 外房の乗合船はヒラメと併せてマハタを狙うケースが多いこともあり親孫式のヒラメ仕掛けが主流だが、「マハタは大きな口でエサを丸飲みするから1本バリで十分です」と石崎さん。
 加えて、1本バリ仕掛けはイワシが弱りにくいメリットもあり、大型に備えた8号以上の太ハリスに適しているという。

予言的中!?

ハタとアタリが続く。早朝のチャンスタイムが一段落するとアタリが遠のいたものの、その後は水深30~40メートル前後を転々と流して1キロ級のマハタが上がった。船長によれば、太東~岩船沖の水深30~40メートル台には無数に根があり、横流しで探ることもあるのだが、当日は横流しで狙うには風が強すぎるうえ、潮の流れが今ひとつのため小移動を繰り返してピンポイントを狙っているという。

また水深50~60メートル台のやや深い場所では3キロ以上の大型が出る確率が高いものの、根があるポイントが広く散らばっているため、潮具合などの条件がそろわないと探りきれないそうだ。

「今日のチャンスタイムは9



▲外房のマハタは1~2月も大いに期待できそうだ

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス! これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

新年の吉兆を占う釣り人の恒例行事
初釣りはもう済みましたか?
2022年も本誌ライター陣の
釣りどきレポートにご期待ください!

◎外房大原港発↓大原沖

本誌編集部 / 内山高典 Takatori Uchiyama

**イワシ泳がせでマハタを狙う
月の出入りがチャンスタイム**

12月23日、マハタを狙って外房大原港の天の清栄丸へ。同船は秋からヒラメとマハタで出船しているが、ヒラメ、ヒラメ&マハタ、マハタといった具合にターゲットを選べる予約乗合で、船が空いている日に最初に予約をした釣り人の要望で魚種が決まるシステム。出船予定は船宿ホームページのカレンダーで確認できる。

マハタにヒラメも!

当日はマハタ船で集合は4時半。船着き場前の駐車スペースには次々と車が入ってきて、乗客は総勢10名と盛況。天野清樹船長に近況をうかがうと、
 「いい日でトップ4尾前後、1キロ級主体に3キロオーバーも上がってますよ」と明るいいコメントが返ってきた。準備が整ったところで港を

知得! 根掛かりとアタリは紙一重!?

同船のマハタのタナは底から2~3メートルが基準ながら、アタリが遠いとタナを下げがち。しかし、マハタが潜む岩礁帯は根掛かりしやすく、仕掛けが根に当たった感触を魚のアタリと思ってそのまま待つと……ガツッチリ根掛かりして仕掛けを失うことに。

根掛かりとアタリで迷わない良策の一つが、タナを高めめの3メートルに決めて仕掛けをしっかりと底から離す方法。急に水深が変わることもあるから、1分くらい底タッチを取り直してタナをキープしよう。



▶まなな魚子の取り直しが誘いにもなる

離れ、50分ほど走ったところで大原沖のポイントに到着。水深は35メートルほど。天候は晴れだが、強い北風が吹き波が高いため、船が上下して釣りにくそうだ。
 15センチほどのイワシが配られスタート。マハタは根魚だがヒラメのように底ベッタリではなく、エサを探すときは底から5メートルくらい浮き上がって活動する。同船のタナの基準は底から

2~3メートルだが、アタリがないときは4~5メートル上方までタナを探るのがコツ。加えて根が険しい岩礁帯を中心に探るため、まめに底タッチを取り、海底の起伏に合わせてタナを取ることも大切だ。開始間もなく右ミヨシの石崎さんが1キロ級のマハタを上げる。アタリがきたタナを聞くと底から3メートルとのこと。マハタを狙って南伊豆にも足を運ぶ石崎さんの仕掛

時半ごろです

声の主は、度たび取材に協力していただいて、沖釣り専門のプロショップ「海狩人(シーハンター)」店主・湊鷹成さん。

泳がせ釣りが大好きな湊さんが、伊豆諸島や銭洲でカンパチやモロコなどの大型魚を狙うとき、必ずあることを確認したうえで釣行日を決めている。それはチャンスタイムの月の出入りの時刻。
 湊さんによれば、月の出と入りの前後は魚の活性が上がるフィードバックタイムで、警戒心の強い大型魚が釣れる確率が高まるという。

「食った!」
 9時15分、石崎さんの泳がせロッドがへの字に曲がった。ハリ掛かりしたマハタは根に潜ろうとするから、石崎さんはリールのドラッグをきつめに調節しているのだが、それでも一気に5~6メートル走られた。直後、ググンと強烈に突っ込んだ瞬間、ラインがテンションを失う。

痛恨のハリス切れ、よほど魚が大きかったのだろう。チャンスタイムは続いている。石崎さんは太地ムツ17号のハリにハリス10号を結び直して再投入。アタリがきた底

から3メートルにタナを取り、30秒ほどの短いインターバルで誘いを兼ねた底タッチの取り直しを繰り返す。
 しかし、その後はアタリが遠のき移動となった。30分ほど走った水深20メートル付近で再開。船長によると浅場は1キロ未満の小型主体ながら、比較的アタリが多い傾向があるとのこと。
 この時点でオデコが数名いたから、大きさにこだわらず、全員に釣ってもらいたいという船長の配慮だろう。
 10時40分、船長の狙いが的中して右胴の間の湊さんがマハタを上げる。それも1キロオーバーのますまずサイズ。
 11時8分、右トモ2番にアタリ。竿の曲がりから見て大きそうだ。
 その直後、ここまでアタリがなかった右ミヨシ2番の小野さんの竿が曲がった。これもデカそうだ。
 兩名とも慎重に巻き上げていく。先に右トモ2番の方が海面に浮かせ、船長がスパッとタモ取りしたのは当日最大2.5キロのマハタ。続いて小野さんが2キロをキヤッチ。
 「皆さんマハタが釣れてホッ」としました。浅場にも大きいのがいるから油断できません

●船宿information
 外房大原港
天の清栄丸
 ☎0470-62-0905
 (詳細は巻末の情報欄参照)

天野 清樹船長

▶料金=マハタ乗合一人1万2000円(エサ、氷付き)
 ▶備考=予約乗合、4時半集合。ほかショウサイフグ、一つテンヤマタイへも出船

ね」と船長。
 11時半に沖揚がり。釣果は0.8~2.5キロが一人1~2尾、ヒラメが船中2枚。
 強風に加え、潮の流れが今ひとつというダブルパンチで全般にアタリが遠いなか、全員本命を手にできたのは積極的に移動を繰り返して、次つぎに新しいポイントを攻めた船長の操船のおかげだろう。
 ハリス8号をブチ切る大物が潜む当地のマハタは例年5月の連休まで楽しめる。ぜひチャレンジしていただきたい。



▶肉厚のヒラメも